

# 健康科学研究科 臨床心理学専攻 博士課程

## 教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。教育方法の特色ある工夫としては、入学生に社会人が多いことを活かしたフィールドワーク研究を推奨し、研究の成果を社会に還元できることが挙げられます。

### 【教育方法】

臨床心理学専攻・博士課程では、高度に専門性の高い臨床心理学者の養成を目的としています。心理臨床の専門家としての知識や理論を修得し、心理臨床の実践能力を身に付け、将来の臨床心理学領域の指導者としての専門性をさらに向上させるために、臨床心理学や心身・精神医学などの領域はもとより、人間を取り巻く様々な領域に亘る問題に積極的に取り組み研究していくよう指導します。とりわけ、臨床心理地域援助の視点からは、博士課程の学生には、都市部にある大学院として、都市部が直面している様々な問題に積極的に関わり、地域住民と共にその解決に参加できる臨床家の育成に欠かせない臨床の実際に根ざした研究活動を奨励しています。その為に、学生たちが地域との連携や心理臨床の経験を充実させ、臨床に根ざした実学的な研究を推進していくよう指導します。

本専攻では、高尚な精神を持ちプロフェッショナルな臨床家として、そして研究者としての使命と責任を自覚し、新たな時代を作る指導的人材の養成を行います。

### 【教育の特色ある工夫】

- ・ 臨床心理学の専門家にふさわしい素養を身につけ、主体的に研究計画を立て、当該領域の発展に資する意義のある研究を実行できる能力を育成するため、能動的学修に配慮しつつ以下の教育課程を実施しています。
  - ① 人の心の基礎にある生物学的、文化的、社会的要因や、認知・行動に関する諸理論等を体系的に学びます。
  - ② 臨床心理学における様々なアセスメントの方法や面接法・支援方法を学びます。
  - ③ 研究方法論を学び、臨床心理の各領域の文献抄読を行います。
  - ④ 関心領域の文献レビューを行い、解明されている問題と未解明の課題を整理して理解します。
  - ⑤ 未解明の問題について指導者の助言のもとで自ら考え研究計画を立案し実施します。
  - ⑥ 研究成果を学会報告や論文に発表し、博士論文をまとめます。
- ・ 前項①～④の基礎的教育は1年次から2年次前半に重点を置き、⑤・⑥の研究の実施と論文作成等のとりまとめに関する指導は2年次から3年次に重点を置いて実施しています。